

京都工芸繊維大学職員英語研修（上級クラス）を受講して

玉井啓介*
tamai@kit.ac.jp

はじめに

スーパーグローバル大学創成支援事業の一環⁽¹⁾で、2016年12/2（金）9：00～16：00、平成28年度京都工芸繊維大学職員英語研修（上級クラス）を受講させていただきました。「事務・技術職員に対し、外国大学等との英語を使ったディスカッションや会議の進行、VIPの接遇等を想定した上級レベルのビジネス英語スキルを習得させ、大学の国際化を推進する高度なグローバル人材を育成する」という実施目的の元、受講後は「English Leader（本学の英語が必要な業務において中心的な役割を果たす者）に認定」、との但し書きに恥じないような、大変厳しく、かつ実践的な内容でした。

研修の内容について

“Communication in academia”（アカデミック環境でのコミュニケーション）と題された研修は、午前と午後に分かれ、計5点のメニューによって構成されていました。

午前は以下の3点の実習を行いました。

1. Icebreaker & Expectation setting
 - Giving and accepting critical feedback
 - Projection and self-presentation
2. Being a respectful host
 - Greeting a foreign guest
 - Showing the guest around
 - Walking the guest through the schedule
 - Avoiding stereotypes
3. Getting around reception parties
 - Initiating small talk
 - Making small talk
 - Changing topics with “speaking of”
 - Leaving the situation politely

まず1. では簡単な自己紹介を行い、それに対して教師と受講生が点数をつけ、コメントする、というものでした。英語の発音、文法、語彙への指摘だけではなく、視線が天井・地面に向かいがち（聴衆の目を見て話す）といった、attitude（態度）への指摘もいただきました。続いて2. では、海外ゲストを案内するというロールプレイを実施し、こちらも教師と受講生から点数とコメントが寄せられました。短いキャンパスツアーを企画する、ということで私は情報科学センターの主機室（サーバ・ネットワーク室）、各演習室のPC設備を案内する、という設定の元、案内を実施しました。先ほどの指摘を受け、視線を気にしながら話しましたが、やはり私の話し方がnervousであることを指摘され、よりmore confidently（もっと自信を持って）に話すように注意を受けました。最後に3. では、相手の話題に興味を抱いていることを示しながら質問を挟んだり、前のトピックと関連を持たせつつ、次のトピックへと移したり、と、ゲストと話が途切れないようにするコツを伝授していただきました。

午後は以下の2点の実習を行いました。実際に会議室のテーブルに着席し、会議を進行したり、ディスカッションを行ったりします。

4. Joining a discussion
 - Confirming understanding
 - Creating your own speaking opportunities
 - Disagreeing diplomatically
5. Chairing a meeting
 - Setting expectations with participants
 - Involving participants
 - Wrapping up a topic and moving on

4. では、「忘年会の企画」といった軽めのテーマから、「新キャンパスを建設するとしたらどこが適切か」といった難しいテーマまで、実際

* 高度技術支援センター 技術専門職員

に議論します。Agree or Disagree を明確にしつつ、一方で、反対意見を述べる際に、先方を批判するのではなく、部分的な理解を示しながら反論する、という作法を学べたのは大変実践的でした。



6. では、順番に司会役を持ち回りで担当し、実際の会議を進行します。出席者の確認、会議のタイムテーブルの確認、各アジェンダ（議題）の確認、といった具合にロールプレイを行います。参加者から司会に、自らの理解が正しいかどうか確認する作法（要約し、正しいか誤っているかを尋ねる）もこのセクションで学びました。



休憩時間中も、日本語を使うことは一切許されず、6時間以上に渡って英語を使い続けることが参加者に課されました。こうした負荷も、今研修の大きな意義と感じました。

研修の成果を業務に活かすために

こうした研修で得た経験と知識を実践に活かす場として、毎年春入学と秋入学の留学生を対象に、情報科学センターのアカウントを利用した各種サービス（Wi-Fi、E-mail、SSL-VPN 等）の説明および、その activation（有効化）を実施する、「情報リテラシーガイダンス」が挙げられます。所要時間は1時間程度で、情報科学

センターが提供する各サービスの紹介から、パスワードのポリシー、E-mail のマナー、セキュリティ、といった内容は講義形式で実施し、本学の e-learning システムを使用した確認テストや、確認テスト合格後の実際のサービス利用については、個別にインタラクティブに行います。



本稿の執筆段階で、職員英語研修後、2回ガイダンス実施しましたが、研修の内容および研修で得た指摘や気づきをできるだけ盛り込むよう意識しました。

おわりに

スーパーグローバル大学創成支援事業の取り組みによる留学生の増加は、キャンパス内を歩いても、ガイダンスを実施する際の風景でも、肌で感じることができます。情報科学センターへの英語による問い合わせも、直接訪問、電話、E-mail 等、様々な形で受ける機会が増えてまいりました。型にはまった対応に終始するのではなく、柔軟で気の利いた対応をするためには、こうした負荷の高い、厳しい研修を経ることが大切かと思いました。今後もこうした機会があれば、積極的に受講し、英語の「地力」を固めていきたいと思えます。

(1) 本学のスーパーグローバル大学創成支援事業に関する様々な取り組みは以下のページを参照。

- 京都工芸繊維大学 | 採択校の取組：スーパーグローバル大学創成支援事業
<https://tgu.mext.go.jp/universities/kit/index.html>